



校訓

自 主  
根 性  
協 同

R6、2、19発行

文責 光山

令和六年も二月に入り、私立専願や高専推薦に始まり公立前期等、立て続けに進路に向けた選抜試験が行われています。三年生は、進路公開の取組をおおして互いの思いを理解し合い、個人として、学年として、進路決定の取組に全方で向かうという思いを強くしました。十五の春を笑顔で迎えるために。

一方、一・二年生は新たな佐敷中の中心として生徒会役員を組織し、二年生は立志式の取組を行う等、新たな佐敷中の伝統を創るための考動を起こしています。令和五年度のまとめの学期として、令和六年度の準備の学期としてできることを丁寧に取り組んでいきたいと思えます。

### 【生徒総会】

【議事】

- ① 生徒会年間目標
- ② 生徒会メテリアルについて
- ③ 生徒会規約について
- ④ 生徒会役員選挙規定について
- ⑤ 各専門委員会年間活動計画について

二月六日(火)に新生徒会による令和六年第一回の生徒総会が行われました。生徒会執行部による令和六年の生徒会テーマを躍動く個性を認め合える、居心地の良い佐中へ」と提案されました。

新執行部は、冬休みの生徒会リーダー研修会の中で令和六年のテーマについて、令和五年までの良さを生かしつつ、残された課題を明確にし、それらを解決するために相応しいテーマについて熟考を重ね、「躍動く個性を認め合える、居心地の良い佐敷中へ」という年間目標を提案しました。さらに、活動内容は、「学年を超え、奉仕の心を持った活動(生活面)」、「課題提出の徹底、積極的な発表(学習面)」という柱を立て、小学校との挨拶運動や全校生徒でのレクレーション、SST等の常時活動と評価方法として生徒会アンケートの活用が提案され、承認されました。その他、右に示した四つの議事について協議され、芦北町復興応援プロジェクトについての報告がありました。

## 躍動～個性を認め合える、居心地の良い佐中へ～

本校では、生徒会を暦年で区切り、早めの執行部の交代を行うことで、年度末実施の生徒総会に三年生が参加できるようにしています。新生徒会執行部と各委員長は、先輩たちの質問やアドバイスを受けながら、年間目標や年間活動計画をよりよいものにしていきます。同時に、三年生にとっては、佐敷中生徒会が受け継いできた良き伝統や考え方などについて、生徒総会の場で先輩たちにバトンを渡すことができます。今回の生徒総会でも、三年生からたくさん鋭い質問があり、先輩としての思いを後輩たちにしっかりと伝える場面が見られました。新執行部や各委員長が回答に窮する場合もありましたが、しっかりと考え、提案内容の理解が得られるように丁寧に回答していました。結果的に年間活動計画を充実させることができたようでした。

### 【生徒集会】く学級委員会の発表からく

二月十四日の生徒集会では学級委員会の発表がありました。一学期に決定した学級目標と人権宣言を二回実施した生徒アンケートに基づいて振り返り、学級別に成果と課題を発表する内容でした。例えば、二年二組では「思いやりを持ち、一丸となって互いに支え合う柱となるの二」という学級目標を立てましたが、六月の第一回生徒アンケートではあまりできなかったと答えた生徒が一割近くいました。しかし、十二月実施の二回目のアンケートでは0%になっており、学級のまとまりが生徒の回答からも浮かび上がってきていました。教師の評価ではなく、生徒たち自身の自己評価を行うことで、自主的、自治的な学級、学年、そして学校へと高まってくることを感じました。三年生では「受検に向けて切磋琢磨し合えた」、「受検が終わった人も後期を受検する人に合わせて自分たちができることを積極的にやっている」のように進路決定を中心にすえながら取り組んだことを成果として報告していました。一・二年生においても、目配り・気配りや教え合う、助け合うなど集団生活をより良くするために大切な行動ができたことを成果として報告している学級が複数ありました。

学級目標や人権宣言を立てて終わるのではなく、中間評価や総括的評価をすることで、集団への所属意識や学級への帰属意識、自己肯定感の高まりにもつながるという思いを強くすることができました。



生徒会長から



フロアからの質問

あとがき  
芦北町の中学校では、武道「空手道」に取り組んでいます。二月十六日は今年度最後の授業でした。最後は発表会を兼ねて学年別に団体形での演舞がありました。生徒の思いが一つになり、数時間の授業とは思えないほどの気魄、一体感、それが伝わる礼節が伝わり、心が揺さぶられました。技だけでなく武道の「心」まで指導してくださった山本先生に「心」から感謝です。(光)